

令和7年度きのくにコミュニティスクール推進フォーラム

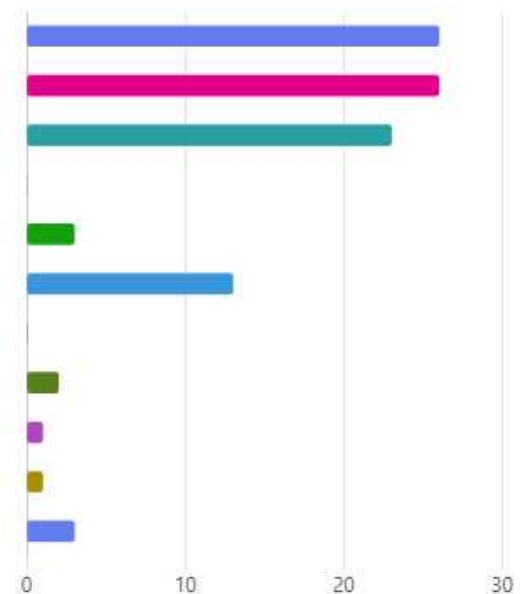
参加者数：190名

【参集：87名 オンライン：103名】

アンケート集計結果（アンケート提出者81名：回収率42.6%）

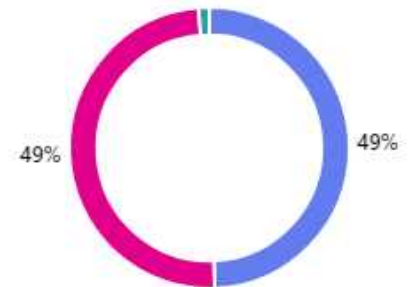
1 参加者の所属、職種について（複数回答可）

教職員	26
行政職員	26
学校運営協議会委員	23
地域学校協働活動推進員	0
地域学校協働活動関係者	3
公民館関係者	13
企業関係者	0
P T A 関係者	2
共育コミュニティ関係者	1
家庭教育支援関係者	1
その他	3



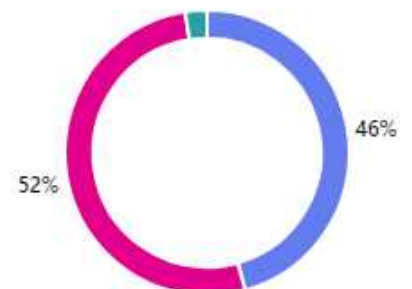
2 フォーラムに参加して、学校運営協議会について理解できた。

● 大いにそう思う	40
● おおむねそう思う	40
● あまり思わない	1
● 思わない	0



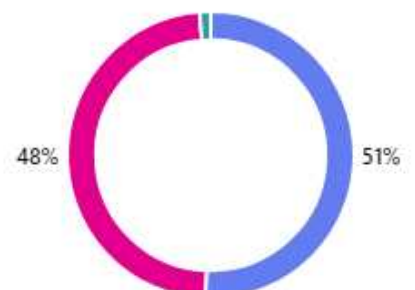
3 フォーラムに参加して、地域学校協働活動について理解できた。

● 大いにそう思う	37
● おおむねそう思う	42
● あまり思わない	2
● 思わない	0



4 フォーラムに参加して、今後、それぞれの立場において、コミュニティ・スクールに関わる取組を推進していこうと思う。

● 大いにそう思う	41
● おおむねそう思う	39
● あまり思わない	1
● 思わない	0



ご意見・ご感想（一部抜粋）

事例発表について

- 取組を進める上で、学校だけでなく地域にもよい効果が表れていることが伝わりました。
- こどもを育てることと、地域の活性化を図ることはともに大きな影響を及ぼしあうことを具体的にイメージできました。学校だけでできることには限界があるということを、地域も家庭も教員も意識しておくことが大切だと思いました。
- コーディネーターの活躍が肝になるのではと考えました。
- 学校運営協議会を進める上で、自校の課題を明確にし、取組を進めることがとても大切だと改めて感じました。また、メンバー間のコミュニケーションもとても大切だと感じました。今後に生かしていきたいです。
- 各学校共に地域の特色と学校の特性を合わせた取組がなされていると思いました。参考になる事例も多くありましたので、本校のコミスクでも活用して行きたいと思います。
- 他校の事例について知ることができて参考になりました。特に、学校運営協議会が自分事として運営に携わってくれるための第1歩として、熟議の留意点について学べたのはよかったと思います。
- 高等学校や支援学校の事例を聞く機会はありませんので、話を聞いてよかったです。
- 県内いろいろな地域、校種の取組があり大変興味深く聞かせていただきました。せっかくCSマイスターの方が参加してくださっていたのなら、それぞれの取組について講評したり、質疑したりしてそれぞれの取組を深掘りしていただけたら参加者もより気づきが広がったのではないかと思います。
- 小、中、高、特支、それぞれの特色ある取組を紹介していただき、とても勉強になりました。学校と地域、誰かに負担が偏ることなく、意味のある活動をみなさんで考え実践されていることがポイントだと感じました。

ご意見・ご感想（一部抜粋）

講演・グループワークについて

- 講演頂いた内容ではこれまで持ち得ていなかった視点の考えも多く、大変勉強になりました。確かにコミスクは地域と管理職の関わりとになってしまっていると改めて考えさせられました。今後はしっかりと職員全体に広めていけるよう努めたいと思います。グループワークではそれぞれの地域の違いから、常に柔軟な災害対策が必要であると感じました。学校側だけの対応ではもちろん難しいため、学校がきっかけとなって地域や家庭に防災、減災の考えが広まっていくよう連携していく必要があると感じました。
- CS活動で、肉体的な関わりの活動はもちろんのこと、心の豊かさ、思いやれる気持ち等“人間は人のために役立つ”ために生まれてきたと思える心持ちを伝えていきたいと思います。愛されている子どもは自信が持て、人を信じ、愛され、愛する人間になると思います。
- 登山で挨拶するのは、目的が同じだからという話が心に残りました。地域と学校でも同じ目的を持っていないと、貸し借りの関係になってしまうので、目標の共有が大切だと感じました。グループワークでは他市町の取組を知ることができ、参考にしたいと思いました。
- なぜCSが必要なのか。私自身理解できてなかったが、必要性が初めて理解できました。
- グループには、それぞれの立場の方が居られたので、違う視点で意見を出し合うことができて楽しかったです。自校での運営協議会においても活用したいです。
- 連携だと思っていたことが、要請に対する支援になっていないかを見直していくためにも、日頃からのコミュニケーションが大切だと思いました。グループワークを通して、何かが起こった時に急に協力が必要だと気付いたとしても、万全の状態子どもたちや自分たちを守ることはできないと感じました。そういった点でも、普段からのつながりを大事にしていきたいと思います。